

川崎市立 日本民家園

日本民家園だより 40号

平成11年3月31日

編集・発行 川崎市立日本民家園

江向家 屋根の葺き替え



富山県の五箇山から移築された合掌造り江向家（国指定重要文化財）で、12年ぶりに屋根を全面的に葺き替えました。今回は屋根を支える骨組みとなる丸太組、いわゆる合掌の歪みも修正する大がかりなもので、土間やカマドの修理なども行われました。この葺き替えにあたっては、五箇山で世界遺産の合掌造りの葺き替えにも携わっている職人を招き、昔ながらの方法で行われました。江向家は古い形式を残す段葺きと呼ばれる段差のある縞模様をつけた仕上げが特徴です。

古民家の全面的な葺き替えは民家園でも数年に1度のことで、工事期間中、多くの来園者に葺き替え作業をご覧いただきました。



火祭りの魅力 —

川崎のセエノカミ行事

点火の緊張感、一気に燃え上がる火柱、ダンゴの焦げた味……火祭りの魅力に取りつかれ、今年の1月に市内23か所のセエノカミを覗きました。

・セエノカミとは? セエノカミ（又はサイノカミ）は1月14・15日を中心に行われる小正月行事の一つです。全国各地で行われ、ドンド焼き、サギチョウ、サイト焼き、オニ火などの呼び名があります。

セエノカミは道祖神のことも指し、セエは「塞（さい・ふさぐ）」の字をあてるのが一般的です。村境や辻で、疫病・災厄が侵入するのをさえぎる神、縁結びの神、子どもの守り神として信仰されました。関東・中部地方では、小正月の火祭り＝道祖神祭りの所が多いようです。火は全てを焼き尽くす、浄化する力があると考えられ、病気や災厄を除去しようという願いがこめられました。

・戦前は市全域 川崎でも戦前まではほぼ全域で行われていましたが、市街化にともない数が減りました。また、昔は子ども（小1～中2位）が運営した行事で、正月飾りや煤掃き竹、古い御札を集め、竹を組んで仮小屋を作り、中で飲食や宿泊をしました。仮小屋は、道祖神碑のそばに立てられるか、道祖神の石（これもセエノカミという）が中に入れられ、燃やされました。しかし、少子化にともない、小屋の作り手は現在大人に代わっています。

・現在の実施状況 私が知ることができたのは37か所でしたが、実際にはもっと多いと思われる。小屋が手作りなので1つとして同じ物がなく、作り手も今年の出来ばえを楽しみながら作業されていました。小屋

組みの脇で黙々と飾りのビニール除去をする姿も見られました。一度中断し復活した所が4割、主催は講中（昔の町内会のようなもの、10

数軒位が多い）、町内会、保存会、親睦会とさまざま、ダンゴを配る所、各自持参する所、食物なしの所……その地域で一番良い方法を選択し、毎年できるように努力をされていました。一方で、年々継続が難しくなっているのも事実です。燃やす場所（水田、空き地）と燃やす材料（竹、藁等）の減少、周囲住民への遠慮（灰が飛ぶ等）等があり、ダイオキシン問題で今年中止になった所が3か所ありました。

・祭りの変容 長い間に少し変わったと思う点がありました。

①セエノカミから離れていく……セエノカミ（道祖神）を意識しているのは33%（図1）、祭りの名もセエノカミで無くなってきています（図2）。道祖神碑のそばで燃やせなくなったり、中に入れる石が割れてしまったりでだんだんセエノカミが何なのか忘れられていく傾向にあるようです。

②子ども主体の祭りでなくなった……少子化も原因ですが、おさい銭を集めるのは教育上良くないとか悪い遊びを覚える等の理由もありました。しかし、元々おさい銭は神への供物であり、子どもが神に仮装する祭りは全国で見られます。

③実施日が土日祝日に移行する……昔は14日でしたが、人が集まらないので15日（成人の日）、又は15日前後の土日にした所がかなりありました（図3）。一方で14日に実施しているのは古くからの地付の方（農家が多い）が集まる所でした。元々1月15日の小正月は満月を元にした自然暦を使っていた頃の正月



菅刈谷「セエノカミ」1999.1.15
葉木台



菅刈谷

葉木台御獄神社

「セエノカミ」1999.1.15

で、14日は大晦日の意があるともいわれます。
 ・新しい(忘れていた)魅力を！ 宿河原小では先生と地域の方の熱意で11年前に復活し、子どもたちは実にいきいきと参加していました。学校で地域の祭りを行うのは良い方法だと思います。飾りのビニールをはずすのも環境教育の一つだし、TVゲームの疑似体験につかる子どもたちにとって、巨大な焚き火は心をゆさぶる体験となるはずです。

家庭崩壊、学校崩壊が指摘される世ですが、家族、異年齢の子、隣近所の大人が参加する祭りは、現代社会で失われつつあるものを取り戻す場、地域のコミュニケーションの場として大事に育ててゆくべきと思います。

新しく移り住んだ人も溶け込めるよう配慮し、地域に合わせ祭りの形も柔軟に変化させつつ、長く継続していけることを願っています。
 (木下あけみ)

図1 道祖神の碑や石はあるか？

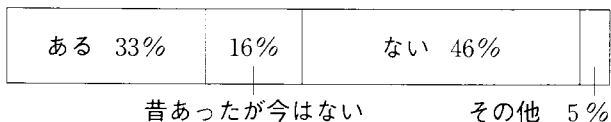


図2 行事の名 ドンドヤキ(昔はセエノカミ)

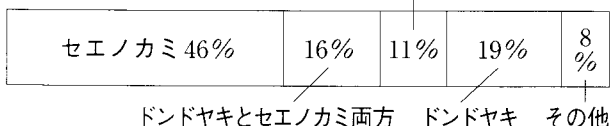
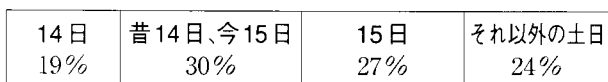


図3 実施日は？



宿河原小学校「セエノカミ」(ダンゴを焼く3年生)

1999. 1. 14

麻生区	岡上(神社、谷戸、和光大隣)、麻生水処理センター横、早野、真福寺、琴平神社、片平(上講中2ヶ所、中講中、下講中2ヶ所)、栗木台御獄神社、金程小、黒川(橋場、西光寺そば)
多摩区	宿河原小、宿河原(橋本、船島神社、河川敷)、登戸(台和、川原最寄)、下布田小、五反田、菅子之神社、菅八雲神社、菅稲田堤、菅仙谷
宮前区	菅生神社、平、神木本町、菅生小、菅生こども文化センター
高津区	宇奈根(河川敷)、諏訪神社
中原区	宮内(河川敷)、丸子橋(河川敷)

市内「セエノカミ」実施状況 1999年1月

人形道祖神

民家園講座「正月とは何か」の開催に伴い、園内に人形道祖神を展示しました。大きくたちはだかるもの、辻にひっそりと立つかわいらしいもの、男女一対のもの…園路、庭、古民家の中など展示場所もさまざま、入園者の方も楽しみながら回られていたようです。

石でできた道祖神は広く知られていますが、人の形をした「人形道祖神」は藁・木・紙で作られ、素朴な力強さの中に境を守り災厄をふせいでくれる神に対する人々の祈りがこめられています。地域ごとに祀り方や形が多種多様で、古い形態をとどめているといわれています。なお、展示資料はすべて市民ミュージアムより借りました。(計17点)

(平成11年1月23日～2月14日に展示しました)



ニンギョウサン(秋田県雄勝郡)

炉端の会研修会『三澤家当主を迎えて』

去る1月19日、当園のボランティア団体「炉端の会」が、三澤家当主の三澤良信さんをお招きし研修会を開催しました。三澤家は長野県の伊那郡宿で薬屋を営んでいた、板葺きの屋根に門構えと前庭のある格式のある民家で昭和46年に民家園に移築されました。

研修会では、三澤さんに伊那郡宿絵図や三澤家家相図、漢方薬の製造法や板葺きの屋根についての解説をしていただきました。また、初代園長の古江亮仁さんにも移築当時のお話をさせていただきました。午後には会場を三澤家に移して、建物や生活用具、漢方薬の道具などを見ながら様々なお話をさせていただきました。実際に民家に住み、道具を使っていた方に直接にお話をうかがう大変に貴重な機会となりました。



日本民家園 春の催し物 (平成11年4月～6月)

津軽三味線 日本の音にふれる

5月4日(火・休) 13:30～15:00

船越の舞台にて

津軽じょんがら節、津軽あいや節など

演奏者：木田林松藤氏

料金：200円(入園料別)

(開演1時間前から会場にて受付)

お茶席の会

5月16日(日) 10:00～ 佐々木家にて

5月30日(日) 10:00～ 作田家にて

古民家を鑑賞しながらお茶を楽しみます。

(協力：たちばな会・所社中)

先着100名 一服300円

(和菓子付き・入園料別)

日本民家園講座「建造物修理の現場から」

6月5日・12日・19日・26日(各土曜4回連続) 13:30～15:30 原家にて

文化財建造物の修理に活躍される方々に修理の現場から生の報告を聞かせていただきます。

1. 高野山金剛峯寺不動堂
2. 中山法華経寺祖師堂
3. 池上本門寺五重塔
4. 佐原の町並み保存

受講料3000円 定員40人 往復ハガキで5/24(月)メ切必着

※往復ハガキは1人につき1枚。住所・氏名・電話・講座名を記入。定員を越える場合は抽選。

ボランティア養成講座

6月18日～8月6日(各金曜8回連続) 10:00～15:00 原家にて

囲炉裏で火を焚いたり古民家の清掃や古民家の解説などしていただくボランティアに参加していただける方を募集します。

※受講にあたってはボランティア参加についての条件等があります。

5月頃募集予定(詳細はお問い合わせください。)